**平成 29 年度第 1 回**
**豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会**

# 次　　第

**日時:平成 29 年 6 月 20 日(火)**
**午前 10 時より**
**場所：豊能町役場大会議室**

○開会

【1】あいさつ

【2】出席者紹介

【3】議事

1　人口動向について（平成 27 年国勢調査集計から）

2　まち・ひと・しごと創生総合戦略 H28 年度の取り組み
（地方創生加速化交付金事業実績について）

3　新しい動き・これからの動き

4　その他

○閉会

**平成 29 年度第 1 回**
**豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会　配布資料一覧**

【資料１】　委員及び出席者一覧

【資料２】　豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みについて

（参考資料）　１　とよののすまいと暮らし多様化プロジェクト（概要版）
２　豊能町シティプロモーションプラン（概要版）
３　豊能町農×観光戦略
４　子どもの哲学教室説明資料

# 平成29年第1回豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
# 委員及び出席者一覧

| 区分 | | 団体名等 | | 氏名 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 住民代表等 | 地域活性化の実践者 | 吉川自治会 | 自治会長 | 向井　勝 | |
| | | 豊能町ふるさとおこし協議会 | 会長 | 甲田　廣行 | |
| 産（産業界） | 地域に根差した事業者 | 有限会社かめたに | 代表取締役 | 谷川　正晃 | |
| | | 山口食品株式会社 | 最高執行責任者 | 山口　宗太郎 | |
| | 農業従事者 | | | 新谷　芳宏 | |
| | 交通事業者 | 能勢電鉄株式会社 | 常務取締役総務部長 | 中島　智彦 | |
| 官（行政機関） | 町 | 豊能町 | 副町長 | 乾　晃夫 | |
| 学（教育機関） | 学識経験者（交通とまちづくり） | 大阪大学大学院工学研究科 | 助教 | 猪井　博登 | （会長） |
| | 学識経験者（子育て支援・社会保障） | 甲南大学経済学部 | 准教授 | 足立　泰美 | （副会長） |
| 金（金融機関） | 地域課題を共有する金融機関 | 池田泉州銀行ときわ台支店 | 支店長 | 鈴東　幹士 | |
| 労（労働者） | 女性の労働環境・ライフワークバランス等の専門家 | Office CANAAN | 代表 | 山田　奈津美 | |

事務局

| | | |
|---|---|---|
| 豊能町 | 総務部長 | 内田　敬 |
| | 秘書政策課 | |
| | 課長 | 船曳　健 |
| | 課長補佐 | 中谷　康彦 |
| | 主査 | 江崎　純史 |

平成29年度豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会【資料2】

# 豊能町まち・ひと・しごと創生
# 総合戦略のとりくみについて

平成29年6月

# 1 人口動向について
（平成27年国勢調査集計から）

## 1-1　人口

〇平成27年国勢調査人口は19,934人。平成22年より2,055人減少

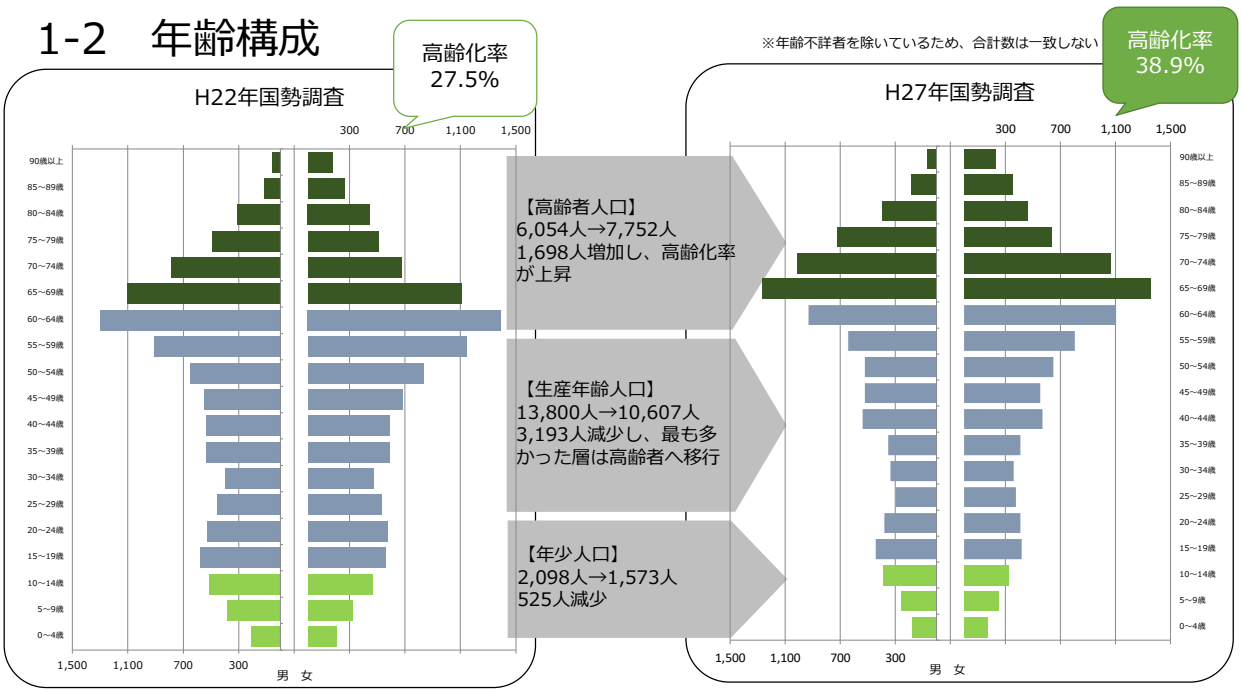
〇人口ビジョン推計（20,510人）を576人下回り、減少は加速

〇減少率は能勢町、千早赤阪村に次ぎ大阪府下ワースト3位

〇近隣自治体と比較しても高い減少率

| | | 人口(人) | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | H27 | H22 | 増減 | 増減率(%) |
| 大阪府 | | 8,839,469 | 8,865,245 | -25,776 | -0.29 |
| 豊能地区 | 豊能町 | 19,934 | 21,989 | -2,055 | -9.35 |
| | 豊中市 | 395,479 | 389,341 | 6,138 | 1.58 |
| | 池田市 | 103,069 | 104,229 | -1,160 | -1.11 |
| | 箕面市 | 133,411 | 129,895 | 3,516 | 2.71 |
| | 能勢町 | 10,256 | 11,650 | -1,394 | -11.97 |
| 三島地区 | 吹田市 | 374,468 | 355,798 | 18,670 | 5.25 |
| | 高槻市 | 351,829 | 357,359 | -5,530 | -1.55 |
| | 茨木市 | 280,033 | 274,822 | 5,211 | 1.90 |
| | 摂津市 | 85,007 | 83,720 | 1,287 | 1.54 |
| | 島本町 | 29,983 | 28,935 | 1,048 | 3.62 |
| 阪神地区 | 尼崎市 | 452,563 | 453,748 | -1,185 | -0.26 |
| | 西宮市 | 487,850 | 482,640 | 5,210 | 1.08 |
| | 芦屋市 | 95,350 | 93,238 | 2,112 | 2.27 |
| | 伊丹市 | 196,883 | 196,127 | 756 | 0.39 |
| | 宝塚市 | 224,903 | 225,700 | -797 | -0.35 |
| | 川西市 | 156,375 | 156,423 | -48 | -0.03 |
| | 三田市 | 112,691 | 114,216 | -1,525 | -1.34 |
| | 猪名川町 | 30,838 | 31,739 | -901 | -2.84 |

# 1-2　年齢構成




# 1-3　社会増減

転出先・転入元上位5団体（人）

| 転出先 | | 転入元 | |
|---|---|---|---|
| 豊中市 | 253 | 大阪市 | 137 |
| 川西市 | 251 | 豊中市 | 117 |
| 大阪市 | 241 | 箕面市 | 87 |
| 箕面市 | 161 | 池田市 | 81 |
| 池田市 | 139 | 川西市 | 80 |

〇5年間で1,111人の社会減（転出超過）

〇20歳代の社会減が顕著

〇近隣への転出が多くを占める

〇平成27年度の出生は58人、死亡は209人と自然減の傾向も続いている(大阪府人口動態調査)

※特記以外の数値はH27国勢調査

H22-H27転入転出者数（人）

| | 転入 | 転出 | 社会増減 |
|---|---|---|---|
| 0～4歳 | 63 | 29 | 34 |
| 5～9歳 | 100 | 18 | 82 |
| 10～14歳 | 59 | 52 | 7 |
| 15～19歳 | 24 | 122 | -98 |
| 20～24歳 | 34 | 291 | -257 |
| 25～29歳 | 63 | 370 | -307 |
| 30～34歳 | 134 | 335 | -201 |
| 35～39歳 | 115 | 180 | -65 |
| 40～44歳 | 137 | 142 | -5 |
| 45～49歳 | 70 | 110 | -40 |
| 50～54歳 | 43 | 122 | -79 |
| 55～59歳 | 66 | 112 | -46 |
| 60～64歳 | 85 | 101 | -16 |
| 65～69歳 | 84 | 109 | -25 |
| 70～74歳 | 49 | 84 | -35 |
| 75～79歳 | 29 | 56 | -27 |
| 80～84歳 | 37 | 41 | -4 |
| 85歳以上 | 70 | 99 | -29 |
| 計 | 1,262 | 2,373 | -1,111 |

# 2 まち・ひと・しごと創生総合戦略 H28年度の取り組み

（地方創生加速化交付金事業実績について）

## 2-1　まち・ひと・しごと創生総合戦略

豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標Ⅰ　若年層が選びやすい環境を作る
- （１）住宅の多様化と流通の促進
- （２）効果的なシティプロモーションの実施
- （３）公共交通の利便性の向上

基本目標Ⅱ　「住みたくなる」子育て環境をつくる
- （１）豊能ならではの教育の付加価値の創造
- （２）豊能での子育てをかなえるためのサポートの充実
- （３）子育てをしながら働きやすい環境の整備

基本目標Ⅲ　地域の資源をしごととお金にかえる
- （１）新たな観光パッケージやビジネスの創出
- （２）次世代につながる農業の活性化
- （３）新しい地域のしごとづくりへの支援

基本目標Ⅳ　避けることができない未来にそなえる
- （１）地域包括ケアと連携したまちづくりの推進
- （２）コミュニティカの維持・強化の支援
- （３）社会資本・都市機能等のマネジメント

緊急かつ重点化する必要がある事業について、目標達成に向けた取り組み方法を具体化した【総合戦略アクションプラン】を策定

## ○豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプランと28年度事業

**【地域ぐるみの定住促進】**

(H28年度)地方創生加速化交付金対象 20,060千円

・定住促進にかかる一体的な推進組織の構築による目標の共有や事業連携

・移住や住宅流通にかかる総合的な「住まいの相談窓口」の設置

・住宅の多様化やシティプロモーションにかかる戦略的なプランの策定・実施

**【農×観光戦略】**

(H28年度)地方創生加速化交付金対象 34,550千円

・農業と観光の事業を一体的かつ戦略的におこなう推進組織の構築による目的の共有や事業連携

・市場調査等に基づく農×観光戦略の策定及び実施

・特産品開発やブランド化、安定的な供給体制と販路の整備

・チャレンジショップの開設、モニターツアーの実施等による事業の推進

**【つどいの場づくり（教育・子育てとコミュニティ）】**

・「つどいの場」づくりにかかる地域関係者の課題・解決方法の調査研究と共有

・「場」に求められる機能、規模、又はつどいの“しかけ”等を整理

・試験的な拠点運営による担い手の育成・発見

**【地域による総合戦略の推進】**

・地域（自治会等）自らが地域課題の整理・見える化や、解決に向けたプラン、客観的指標を定めた“地域ビジョン”を策定。地域特性や自主性を尊重しつつ、総合戦略の課題解決やＫＰＩ向上に資するものを対象とする

・専門家招へいやワークショップを通じ、プラン策定や人材育成を行う

・ビジョンに基づく事業を実施し、ＰＤＣAを行っていくとともに各地域における取組の情報共有や連携を行う

**平成28年度は「シティプロモーションプラン」「住宅多様化推進計画」「農×観光戦略」といった次年度以降の事業実施に向けたプラン策定とチャレンジやスタートアップとなる事業を、地方創生加速化交付金（内閣府）を活用して実施**

# 2-2　地域ぐるみの定住促進

## （1）「すまいと暮らしの多様化推進プロジェクト」の策定

〇web調査・転出者調査、不動産事業者等サウンディングによりI/Uターン層のニーズ整理、民間事業者参画可能性等を検証

〇若年層の共働きが一般化し、交通利便性や日常生活の利便性を求めている上、近隣地域においては住宅が供給過剰となっている

⇒豊かな自然や安全・安心の子育て環境があっても、従来のような、都心へ通勤する一般的な若年層を取り込むのは困難な状況

〇一方、大阪市内等からはスローライフを志向する層の移住意向が高い、箕面森町地域における教育機関の新設、企業進出による新たな住宅需要、将来的なUターン層などのニーズがある

〇地域は若年層が入ってくることは歓迎する声があるほか、空き家を活用した居場所づくりなどのニーズも存在

※H28年度加速化交付金事業費：5,996千円（委託料）

**すまいと暮らしの多様化推進の基本方針**

都心ではなく、豊能町で暮らすことに価値・魅力を感じ、自己実現できると思える住まいと、交流や助け合いを生む場・機会・ビジネスを創出する

**すまいと暮らしを多様にする、まちに埋め込む9つのプロジェクト**

1　とよ農にチャレンジ！プロジェクト
（貸農園オプション付き住宅や新規営農者移住プログラム）

2　古民家活用（転貸）プロジェクト

3　暮らしと仕事体感！お試し居住プロジェクト
（地域での暮らしやしごとを体験し、発信してもらう「豊能版トライアルステイ」）

4　子育て世帯支援のための既存住宅活用プロジェクト
（JTI(移住・住み替え支援機構)とのタイアップによる子育て層向け住宅整備）

5　空き家・空き室を活かした「暮らしシェア」プロジェクト
（“異世代ホームシェア”（現代版の下宿）等の実施）

6　低未利用地活用プロジェクト（住替え促進プロジェクト）

7　空き家・空き地の地域管理プロジェクト

8　移住者受入れプロジェクト

9　空き家等の多目的利活用（拠点づくり）プロジェクト

各プロジェクトについて、関係事業者との調整や担い手の発掘を行いながら、パイロットプロジェクトとして実施。評価、継続検討を経て、横展開や継続を図る

※「すまいと暮らしの多様化推進プロジェクト」本編では、具体的なスキームと想定される担い手、関係事業者を記載

## （2）シティプロモーションプランの策定・先行実施

〇web調査によるターゲット整理や、学識経験者（東海大学河井教授）の監修により、人口減少時代におけるシティプロモーションのあり方、基本的な方向性を検討

〇協働によるプロモーションを検討するため、「豊能町魅力発掘隊」を形成。ワークショップや現地踏査により【ブランドメッセージ案】を策定

〇社会実験として、子育て層向け、都市部OL向けのフリーペーパーを活用し、地域魅力の発信、効果検証を実施

※H28年度加速化交付金事業費：6,915千円（委託料）

**豊能町シティプロモーションプラン**

物量により知名度を向上させ、いきなり「住んでください」と訴えて定住人口の増加を図るような取り組みでは、豊能町は活性化しない。

地域住民・住んでいた人・近隣に住む人・地域で働く人・地域を訪れる人などの「推奨意欲」「参加意欲」「感謝意欲」を高め、地域の熱量、地域内外の関与者を増加させることをシティプロモーションの基本方針とする

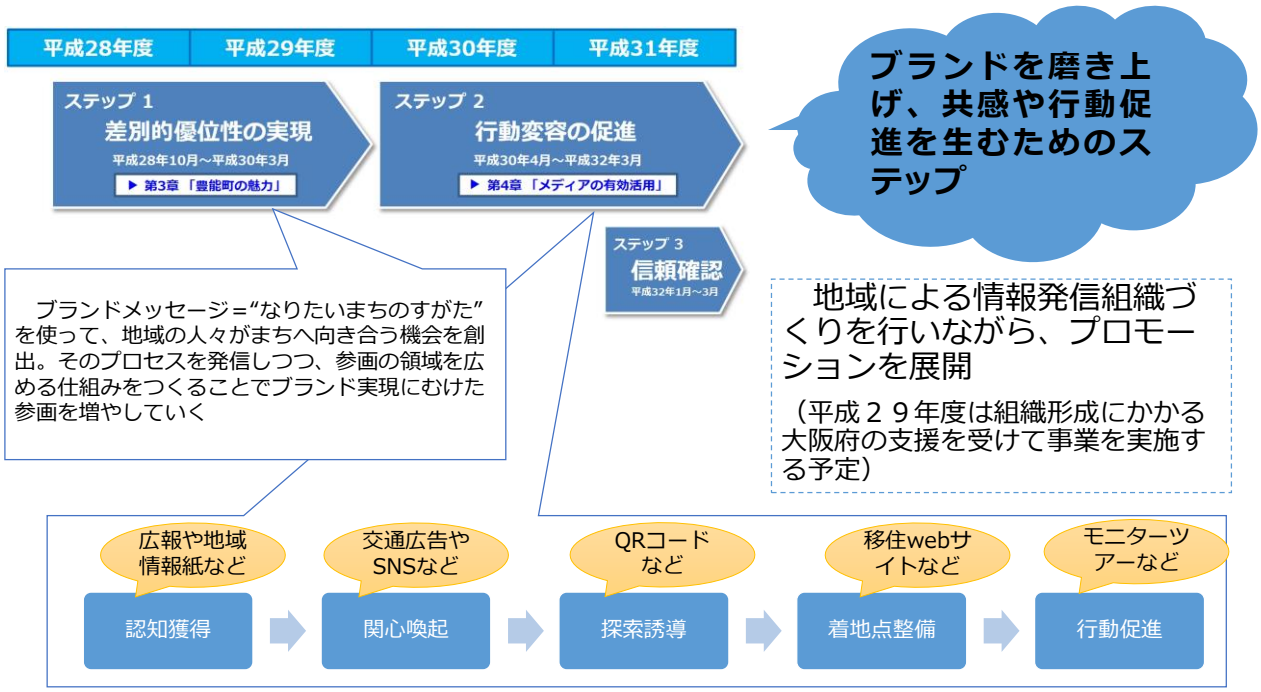
**〇豊能町魅力発掘隊による3つのブランドメッセージ案**

（案①）
**くらしを手づくり　大阪豊能町**
「あなたらしくいきられるまち」
大阪都心から一本道でたどり着く静かな町。
きれいな水、澄んだ空気、緑あふれる自然、
そして、子どもたちの笑い声。
余計なものがないからこそ、この町では
あたりまえの、でも、かけがえのない
豊かさに、気づくことができるのです。
自分らしい人生を、手づくりするしあわせ、
そんな贅沢が見つかる町、豊能町。

（案②）
**心が色づく　大阪豊能町**
「しあわせに気づくまち」
大阪都心から一本道でたどり着く静かな町。
きれいな水、澄んだ空気、緑あふれる自然、
そして、子どもたちの笑い声。
余計なものがないからこそ、
あたりまえの、でも、かけがえのない
人生の豊かさと彩りに、気づくことができるのです

（案③）
**こころ　うるおう　大阪豊能町**
「しあわせに気づくまち」
大阪都心から一本道でたどり着く静かな町。
きれいな水、澄んだ空気、緑あふれる自然、
そして、子どもたちの笑い声。
余計なものがないからこそ、
あたりまえの、でも、かけがえのない
人生の豊かさと潤いに、気づくことができるのです

今後、中学生、地域住民、町職員等の集まりにおいて、地域魅力増進や課題解決のワークショップを実施し、その内容と結びつけながらメッセージをブラッシュアップしていく




## （3）「住まいの相談窓口」の開設

**（住宅流通促進拠点運営チャレンジショップ）**

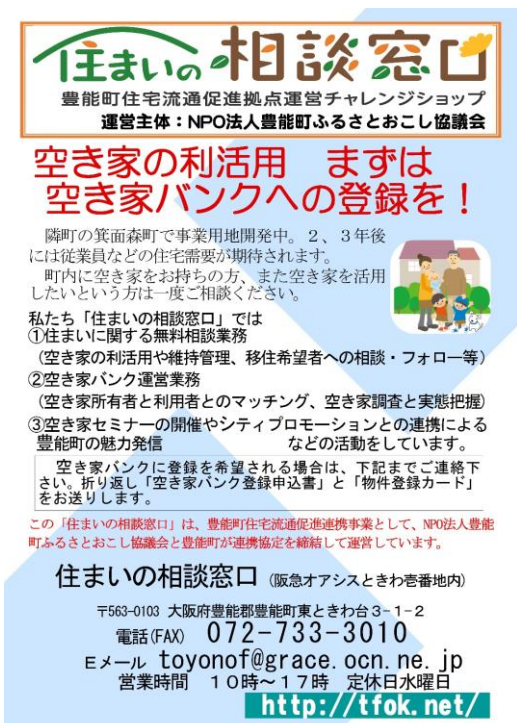
○NPO法人（豊能町ふるさとおこし協議会）と連携協定を締結し、空き店舗を活用してショップをオープン（協定先はプロポーザル方式により選定）

○人材育成や、将来的な自立的運営を目指した“チャレンジショップ”としてオープン（町が開設費、賃料その他イニシャルコストを負担）

○平成28年度は町との合同セミナー（ファイナンシャルプランナーによるセミナーと空き家セミナー）を開催

固定資産税納税通知等の活用による周知やセミナー開催により、登録物件や空き家管理サービスの増を図る。また、多様化プロジェクトやシティプロモーションにかかる事業との連携を進めていく

※H28年度加速化交付金事業費：4,857千円（物件使用料・補助金など）



# 2-3　農×観光戦略

## （1）「農×観光戦略」の策定

〇地域でのアンケート等では、地域内消費のしくみづくりが課題

〇サイクリストなどの新たな需要などもみられる中、観光分野におけるブランディング、滞在のしくみも今以上に必要な状況

**基本方針コンセプト**

「自然に恵まれ、健康で、畑と食卓が近いまち」として人を呼び込み、地域の資源をしごととお金にかえる

1　農業と観光の情報発信拠点としての「道の駅」の展開

2　観光ルート・回遊ネットワークの創出
～回遊できる豊能町を目指す～

3　農家と住民によるCSA（前払いによる農産物契約）の展開／栽培指導付きレンタルファームの展開

4　豊能町農業スクールの展開

5　豊能町農産物のブランディング

6　交流拠点として右近の郷の活用

7　豊能町の魅力発見・コンテンツづくり

※H28年度加速化交付金事業費：6,738千円（委託料等）

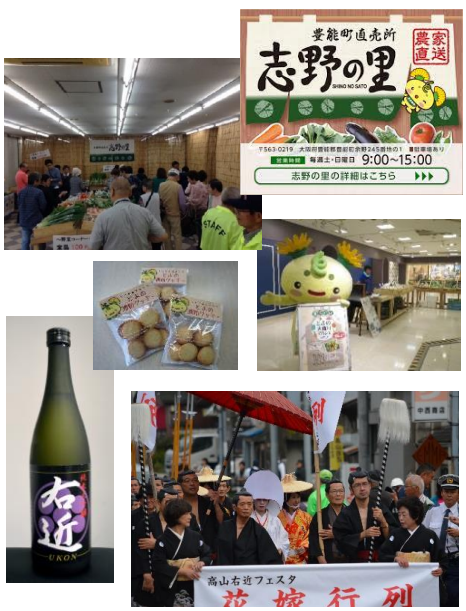
## （2）先行的な取り組み

〇直販所「志野の里」の開設
（チャレンジショップとして協議会方式で運営）

〇地域外における直販のチャレンジ
・豊中市（千里中央）等において定期的な直販を実施

〇新たな特産品開発・ブランド化/耕作放棄地受託支援
・ヤーコンの出荷体制整備
（生協への出荷やサプリメント生産基盤整備）
・耕作受託実施のための機械購入

〇地域による活性化の取り組み支援
・吉川地域における花折街道活性化
・高山地域等における“高山右近フェスタ”・“花嫁行列”
・「右近ミュージカル」の実施




⇒観光協会や農業関係者等による組織で推進
引き続き、農業法人の設立に向けた基盤整備、チャレンジを継続するとともに、地域と協働で拠点づくりを検討

※H28年度加速化交付金事業費：24,194千円（補助金・物件使用料等）

# 3 新しい動き・これからの動き

## 3-1　新しい動き

**【のせでんアートライン2017　里山の学校芸術祭】**

〇能勢電鉄沿線一帯自治体で、府県の境を越えて行われるアートイベント

〇3回目となる今年は「里山の歴史と知恵を五感で遊ぶ」をテーマに、アーティストによる地域ワークショップ実施

〇吉川地区の古民家を拠点に活動を展開

**【官学連携による健康まちづくり】**

〇武庫川女子大学・同短期大学部と連携協定を締結

〇地域と官学の連携により、地域包括ケア連携、コミュニティカの維持・強化等推進

**【子どもの哲学教室】**

〇吉川保育所において、月１回「哲学教室」を開催

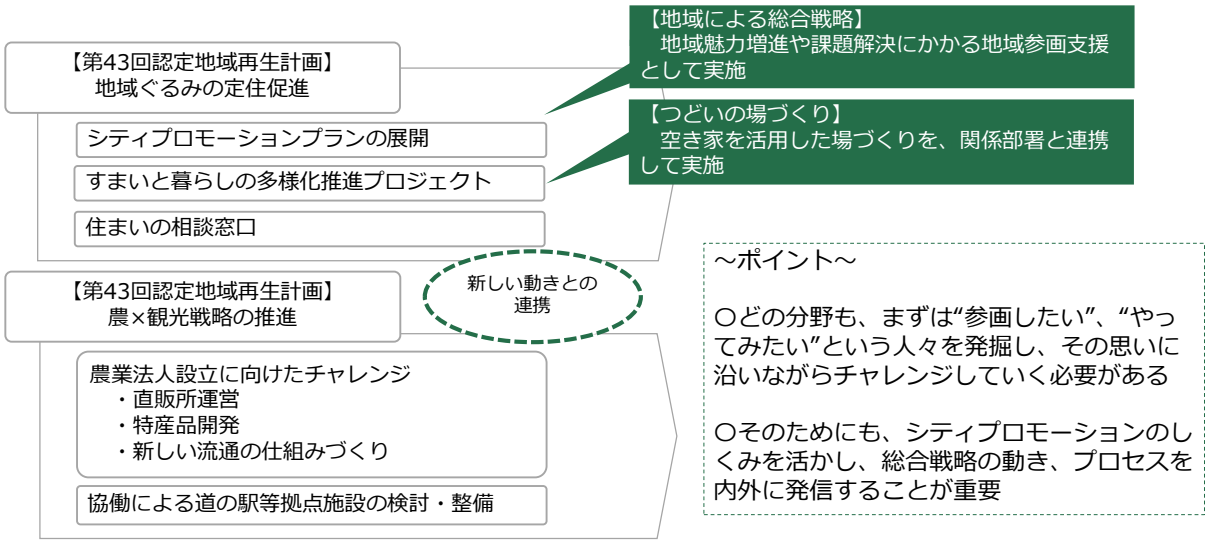
〇“こたえのない”事柄について、考える、言葉にする、聞く、受け入れるといった体験を重ねていく

**【女性活躍室の設置】**

〇平成29年度より、女性活躍を推進する専門部署を設置

〇女性が豊能でたのしく暮らせる、自分をみつめて一歩踏み出す、地域で自分らしく働くなどをテーマとしながら、地域と一緒に事業を展開する予定

# 3-2　これからの動き




※各アクションプランについて、地域再生法に基づく地域再生計画として内閣総理大臣認定を取得。H29～H31年度は地方創生推進交付金の交付対象事業となる。